

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	3071600518
法人名	社会福祉法人 平成福祉会
事業所名	かぐのみ苑湯浅グループホーム
所在地	和歌山県有田郡湯浅町湯浅2032-1 (電 話) 0737-65-3636

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平2-1-2		
訪問調査日	平成20年9月4日	評価確定日	平成20年9月26日

【情報提供票より】(20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 12人, 非常勤 1人, 常勤換算 12.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 3 階 ～ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり 900円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低 72 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小野田クリニック、医療法人清真会 井上病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは3階建ての3階部分にあり2階にはデイサービスセンター、在宅介護支援センター、ホームヘルプサービスを有している。また、国道に面した街中にあり家族にとって訪問しやすい立地である。利用者は介護される一方の関係ではなく、その能力を活かして職員と共に支え合う関係が来ている。特に食事に関しては利用者も一緒に献立を決めるところから始まり買い物、下ごしらえ、調理に関わる人、配膳や洗い物をする人等、能動的な動きが見られる。運営者は職員の手の回らない部分を気軽に修繕してくれるなど信頼関係が良好でホームに活気をあたえている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域とのつきあい、運営推進会議、災害対策、居心地よく過ごせる居室への配慮という前回の評価での改善課題については(災害時の連携という部分を除き)地域との関わりは前向きに取り組む大幅な改善が見られる。また居室についても改善が見られ、それぞれに工夫されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が自己評価・外部評価の意義を理解した上で、自己評価の書類にそれぞれ記入し、結果を見て会議にかけ、それを主任、副主任がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催されており、利用者の状況報告、地域に馴染むための取り組み等が議題に上っており、外部から有識者などを呼んで話を聞く機会も持つなどサービスの向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族から意見、要望を気軽に出示てもらえるよう玄関脇にポストを設置したり苦情申し立てのポスターを貼る等している。また家族が多数集まる行事に家族同士で話せるような機会を作り、運営に反映させるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町主催のブドウ狩り、老人会の食事会等に参加して顔馴染みが増えてきている。また運営推進会議によって、小学校との交流等地域に根ざした取り組みで地域との連携が進みつつある。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域と関わりながら利用者それぞれが生き生きと暮らせるよう『一人ひとりの生活史を知り残存能力を把握し、無理のない役割や出番を提供する』という理念をつくり掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送り時に理念を唱和し全員で共有、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の夏祭りや運動会には地域の方々を招待している。また、利用者と職員が町主催のブドウ狩りに参加して地域に馴染みが出来始めている。事業所を知ってもらうためにも機会をとらえて地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を理解してサービスの質の確保や向上のため全員で自己評価に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やサービスの報告を中心に2ヶ月に1回開催されている。前回の会議では小学校の教頭先生を講師に招き、子供との交流をする上での注意点について話をうかがう等、事業所の運営に活かす試みが行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町職員とは利用者の入退所や地域行事等について報告し、県からの通達などは直接持ってきてくれる等、連絡を密にしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書を送付する際に利用者の近況と一緒に報告している。ホーム便りも発行し家族に日頃の暮らしぶりを知ってもらうようにしている。また何か変化があればその都度電話等で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を出しやすいように2階玄関にポストを設置している。また外部にも苦情や要望を表せる仕組みとして苦情担当委員のポスターを掲示しているが、あまり出ないので家族が多く集まる行事に家族同士で話せるように水を向けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限に抑えている。ユニット間の職員の異動はダメージにならないよう素早い対応をとっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップのため経験年数に応じて、あるいはテーマにより県社会福祉協議会やグループホーム連絡会の研修に参加する機会を設けている。また、ホーム内の会議にて報告したり、資料を回覧して相互に学んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会に加入して研修等を通じ質の向上を目指している。相互実習にも参加しており職員にとって他の事業所での経験は大きな刺激となりそれをケアに活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入居という形は取らないで事前に見学をしてもらったり同建物内のショートステイやデイサービスを利用しながら様子を見て家族とも相談し利用者が安心して馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が介護される一方の立場でなく出来る人が出来る場所を役割として担っている。特に食事の場面では調理、配膳、盛りつけ、片づけ等利用者がすすんで行動している。魚のさばき方や野菜の作り方、昔の遊びなどは利用者が先生となって職員に教える場面もあり共に学び支え合う関係が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々表情を見てその思いを受け止められるよう気をつけている。本人や家族から聞き取った事や日頃の気づきをノートにして本人本位の暮らし方が出来るよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族との話しあいをもとに月1回の職員会議にて介護計画を作成している。普段から気づきノートを作成しており、職員それぞれのアイデアを反映して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しを行っているが変化が生じた場合は随時状況に応じて関係者と共に見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制にて利用者の負担を軽減している。また毎日の買い物や季節ごとに外出を楽しんだりして柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所指定のかかりつけ医は隔週、歯医者等は毎週往診してもらっている。以前からのかかりつけ医への通院は家族の付き添いが原則だが出来ないときは職員が支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合についての話し合いを、入所契約時にしており家族や職員等全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけや対応について一人ひとりのプライバシーを損ねないように職員全員で会議等で確認しあっている。またケース記録、病歴等は外部の目に触れないように管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを大切に、好きな時代劇のビデオを用意したり、編み物、ぬり絵、手芸等その人のペースでゆったりと過ごしてもらえよう支援している。夏期は朝早く起きる人が多いので職員の出勤も30分早くして対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは利用者一人ひとりの力を活かして職員と一緒にに行っている。献立は買い物に行ったり菜園で収穫した野菜を使ったりして利用者と職員で相談して決める。食欲がない人には好みの味付けや別メニューにする等、職員と共に楽しみながら食事ができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に毎日できるが、チェック表を活用し希望やタイミングを見計らいながら行っている。自分の好きなシャンプー持参で楽しむ人もいる。見守りやさりげない支援で入浴を楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園の花や野菜を作り、その収穫が食卓を賑わしたり、またぬり絵や貼り絵の制作などを楽しむ等、張り合いや気晴らしになるよう支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物に車を使い、順番に出かけるチャンスを作っている。また利用者の行きたいところの希望で家の近くにドライブした時は馴染みの店で買い物をしたり事業所の中だけで過ごすことのないように支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し日中玄関の施錠はしていないが、事業所の目の前が国道に面し交通量も多く家族の了解を得てエレベータの使用を控えている。ユニット間は自由に行き来出来る。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の立ち会いのもと昼夜を想定した避難訓練をしているが地域の協力を得られるまでには至っていない。	○	災害時に地域住民の応援が得られるように協力体制を充実することが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に水分と食事摂取量を記入し全体を把握している。一人ひとりの状態に応じて別メニュー、刻み食、とろみ食も対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感あふれる利用者の手作りカレンダーが壁を飾り、柔らかな光がブラインドを通して入っている。また、食事中は落ち着いたBGMが流れている。不快な音や光、においなどに注意し、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や調度品が置かれ、ぬり絵や家族の写真等が壁を飾っている。本人や家族の希望で畳を敷いたり、仏壇を持ち込まれたりして居心地よく過ごせるような工夫をしているが、掃除の不十分な箇所もある。	○	利用者が十分に掃除の出来ないところについては職員のサポートを期待する。